

く干たる時、折てとるべし。又刈てたばね、池川などに五六日も漬をきて、取上干てもみて取もよし。かくのごとくすれば、まきて後虫付ざるものなり。又霜月抜ていけをき、正月うへてたねとするも實りよきものなり。うゆる地の事、大根は細軟沙の地に宜しとて、和らかなる深き細沙地を第一好むものなり。河の邊ごみ沙の地、又は黒土赤土の肥たる細沙まじり、凡かやうの所大根の性よき物なり。同じく地ごしらへの事、五月いか程も深くうち、濃糞を多くうち干付をき、其後度犁返しにかきこなし、埋ごゑをもして、六月六日たねを下すべしと云り。然ども大かた梅雨の後糞を打、ほし付、能々地をこなし、凡土用中に蒔を上時とし、七夕盆の前後を中時とし、八朔を下時とす。地により所によりて、各其よき時節ある事なれば、是必一偏には定めがたし。早過たるは根ふとく入事ありといへども、味よからず。山中野島などの外、屋敷内などにうゆる事は、前に云ごとく、いく度も委しくこなし干をきて、凡八朔の前後大抵能時分なり。畦の廣さ四尺ばかりにして、横筋をきり、油糟、濃糞などを多く用ひて蒔糞とし、灰糞に和してうゆるよし。牛馬の糞のよくかれ熟したるも、土和らぎて根よくふとる物なり。鼠土にて蒔たる尙よく、九耕麻十耕蘿蔔とて、麻畠はいか程も耕しこなす物なれども、是よりも大根畠は猶一入よく耕しこなし。こしらゆる物なり。麻地九遍耕せば麻に葉なし、大根畠を十遍も耕せば、鬚少もなしと云り。種子の分量の事、一段の畠に凡五六合を中分とすべし。但市町近くて、小なを間引うる所ならば、多くも蒔べし。さて二葉三葉の時より、段々次第に間引て、凡一步の内に四五十本ある程を中分とすべし。是一段の畠に、一萬二三千ある積なり。但大きを望むものは、猶うすく間引べし。

大根利用

〔宜禁本草〕五菜 萊菔根 辛甘温無毒散服及炮煮服大下氣消穀去痰癖肥健生汁主消渴試大有驗

能制麵及豆腐毒嫩葉生食大葉熟噉消食和中名蘆薈 利關節理顏色練五藏惡氣飲食過度生嚼噉

之使消飽食亦不發熱主肺嗽吐血温中補不足治勞瘦咳嗽子水研服吐風痰偏頭痛生汁仰臥注鼻